

かわいい子には 旅をさせる

東京大学教養学部地域文化研究学科4年

竹田研究所準研究員

吉光翔平



～ 深く広い国際交流の促進と
広い視野の獲得～

(阿蘇のカルデラ
を望む小道)

竹田に来て・・・びっくり！！

すばらしい街

- ・文化、歴史、伝統
- ・水、水田、食



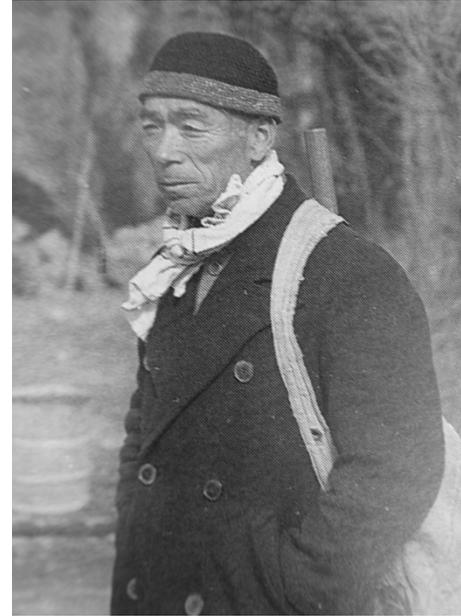
そのほかびっくりだったのは、

(木部部長宅前に広がる水田)

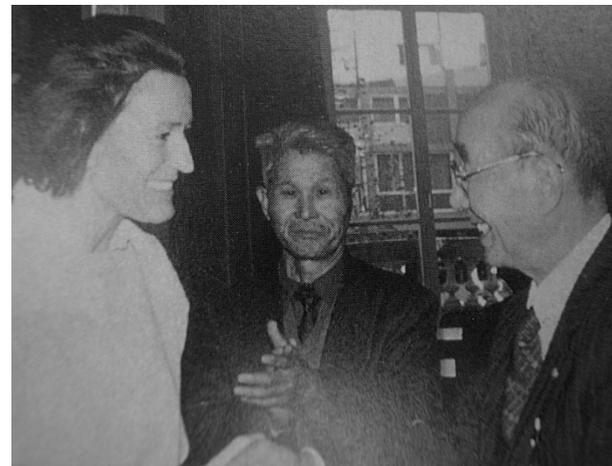
ドイツと交流している！！！！

直入とバードクロチンゲン交流の歴史

- 70年以上前に世界を意識していた御沓重徳
- ドイツ表敬訪問団訪独(平成2年)
- 現在まで、ドイツ、直入(竹田市)、それぞれ300名以上が相互訪問



(御沓重徳,
「パンドラの箱に残されていた写真集」より抜粋)



(ラング観光局長(平成2年当時)の歓迎を受ける岩屋万一直入町長(当時),「長湯温泉文化本」より抜粋)



(ラング女史とかつての林補佐,「長湯温泉文化本」より)

交流の結果

経済効果

- ドイツワインの輸入
- 直入温泉を訪れる観光客は7万人から10倍以上の80万人に増加

国際交流による

相互理解の促進

視野の拡大、新しい視点の獲得



しかし・・・ 竹田で感じたのは、

視野の狭さ

空間的視野

- 竹田市外に対する意識の欠如

時間的視野

- 100年後の竹田は？
- 次世代のための竹田

直入を中心に培った「広い視野」が
活かしきれていない

提案

～ より深く広い交流へ～

高校生を対象とした
竹田とバードクロチンゲンとの
2ヶ月交換留学制度



(ドイツ、ベルリンにある赤の市庁舎)

意義

更なる国際交流として

- 高校生にドイツで「生活」してもらおう。

人材育成として

- 高校生に海外留学する機会を与える。

内容

- ドイツに派遣する高校生を2人選ぶ。
- 直入駐在の国際交流員の下でドイツ語を学ぶ。
- ドイツへ行き、ホームステイしながら、ドイツの生徒と同じように学校に通う。
- その際、ドイツから日本に来る学生がパートナーとなって留学生を助ける。
- 旅行したりしてもいいじゃない。
- ドイツからの留学生の受け入れ。

なぜ高校生なのか？

- 中学生を対象にした6名10日間の研修制度により興味を持った学生に、更にドイツ語、ドイツについて勉強する機会を与える。
- 海外で1人でやっていくのに十分な年齢。
- 語学を勉強するには若い方がいい。
- 意欲ある「高校生」にチャンスを与える。

予算

- チケット代 25万
- 留学生保険代 5万
- 生活費はホームステイにすればかからない
- その他雑費は自己負担
- 1人30万 × 2 = 60万円

問題点

- 学校側の協力を得られるのか？
- 県立高校に協力を要請する場合、県の許可が必要？
- 誰を対象とするのか？
- 行く高校生がいるのか？
- お金はどこから出るのか？
- バードクロチンゲン側のことをほとんど考えていない。
- ドイツに派遣される留学生が竹田に留まるとは限らない。むしろ出て行くだろう。

おわりに

- 自分たちが竹田に来たことの意味は？



- 同じようなチャンスを竹田の高校生に与えたい！！

ご静聴ありがとうございました